

● アフターサービスについて



使用中に正常に作動しなくなった時は、まず本文の「故障とお考えになる前に」を参考にしてチェックしてください。「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店、又は当社ユーザーサービス係にお申し付けください。



保証をお受けになる場合

お買い求め頂いた販売店、もしくは当社ユーザーサービス係に、不具合内容を具体的に提示の上、EGS-S1本体とリモコンをセットにして、保証書、車検証のコピーと共に送ってください。なお、保証範囲につきましては、保証規定をご覧ください。



保証対象外の修理について

保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象とならない場合の修理については、原則として有償となります。詳しくは、当社ユーザーサービス係までご相談ください。

Mitsuba

リモコンエンジンスターター

EGS-S1

取付・取扱説明書 (保証書付)

このたびは、EGS-S1をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用ください。
また、お読みになった後も、本冊子は車検証入れなどに保管してください
本製品を譲渡される場合や別の車に取り付けし直す場合も、本冊子を必ず製品に付
帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にしてください。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。

⚠ 危険・・・取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。

⚠ 警告・・・取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。
又、法律に違反することを意味します。

⚠ 注意・・・取扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。
又、製品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

⚠ 警告

本製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。分解したり改造したりすることは法律で禁じられていますので、絶対になさらないでください。

リモコンケースの裏面に貼られている技術基準適合証明ラベルははがさないでください。このラベルがはがれた状態で使用すると電波法違反となります。

目次

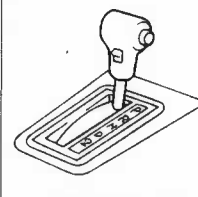
取り付け可能な車は.....	3	使用上の注意.....	16~17
取り付け手順.....	4	使用方法.....	18~19
取り付けの前に.....	5	未永くご使用頂くために.....	19
車種別専用ハーネスの取り付け.....	6~7	メンテナンス.....	20
本体にオートマチック車である事を認識させます.....	8	故障とお考えになる前に.....	21
動作確認をします.....	9	ブザー音とモードスイッチについて.....	22
うまく動作しない時は.....	10~11	仕様.....	23
各種取り付け作業.....	12~13	保証規定.....	23
ABS装着車にお乗りのお客様へ.....	14	アフターサービスについて.....	24
正しくお使いいただくために.....	15	保証書.....	24

● 取り付け可能な車は・・・

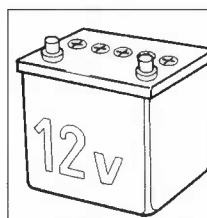
本製品は「適用車種一覧表」に記載されていない車種には取り付けないでください。

国産車

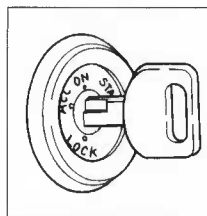
⚠ 危険 ● 国産車にのみ、取り付け可能です。
外国車への取り付けはできません。



⚠ 警告 ● オートマチック車にのみ、取り付け可能です。
本体のオートマチック車判別機能により、マニュアル車への取り付けはできません。

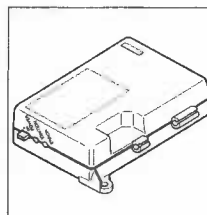


⚠ 警告 ● 12V車にのみ、取り付け可能です。
24V車への取り付けはできません。



⚠ 注意 ● 電子制御燃料噴射装置搭載車にのみ、取り付け可能です。

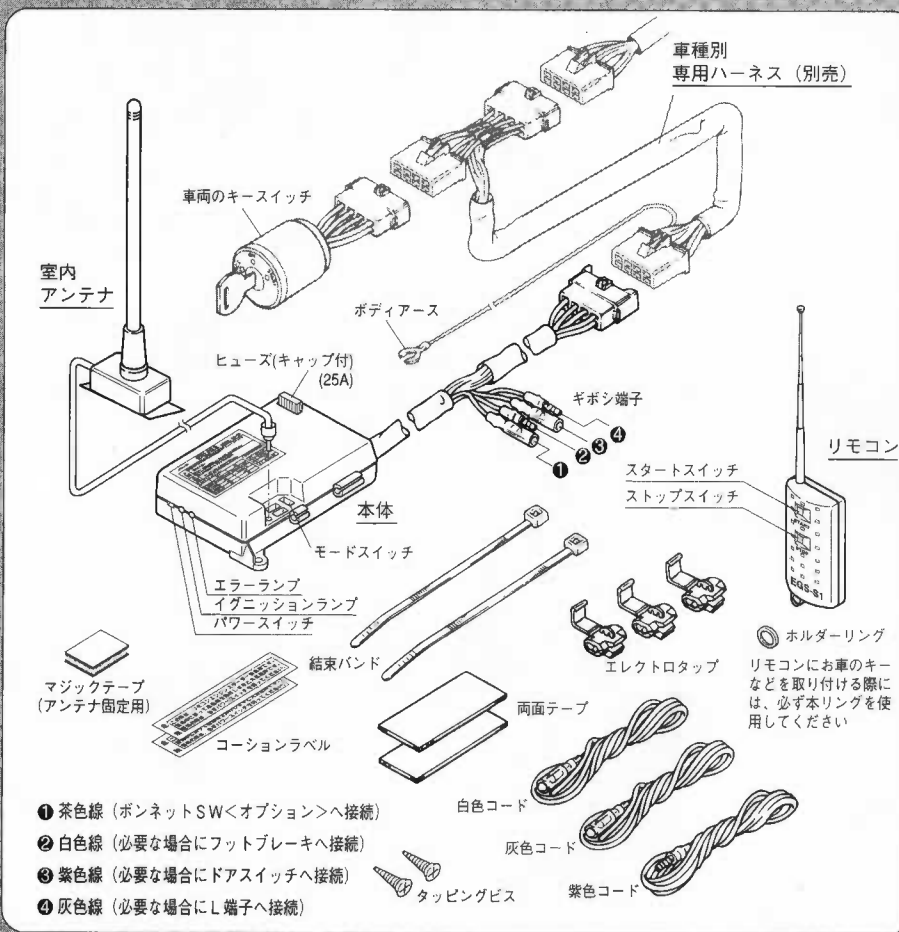
電子制御燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することができる車にのみ、取り付け可能です。エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とする車、電子制御キャブレター搭載車への取り付けはできません。



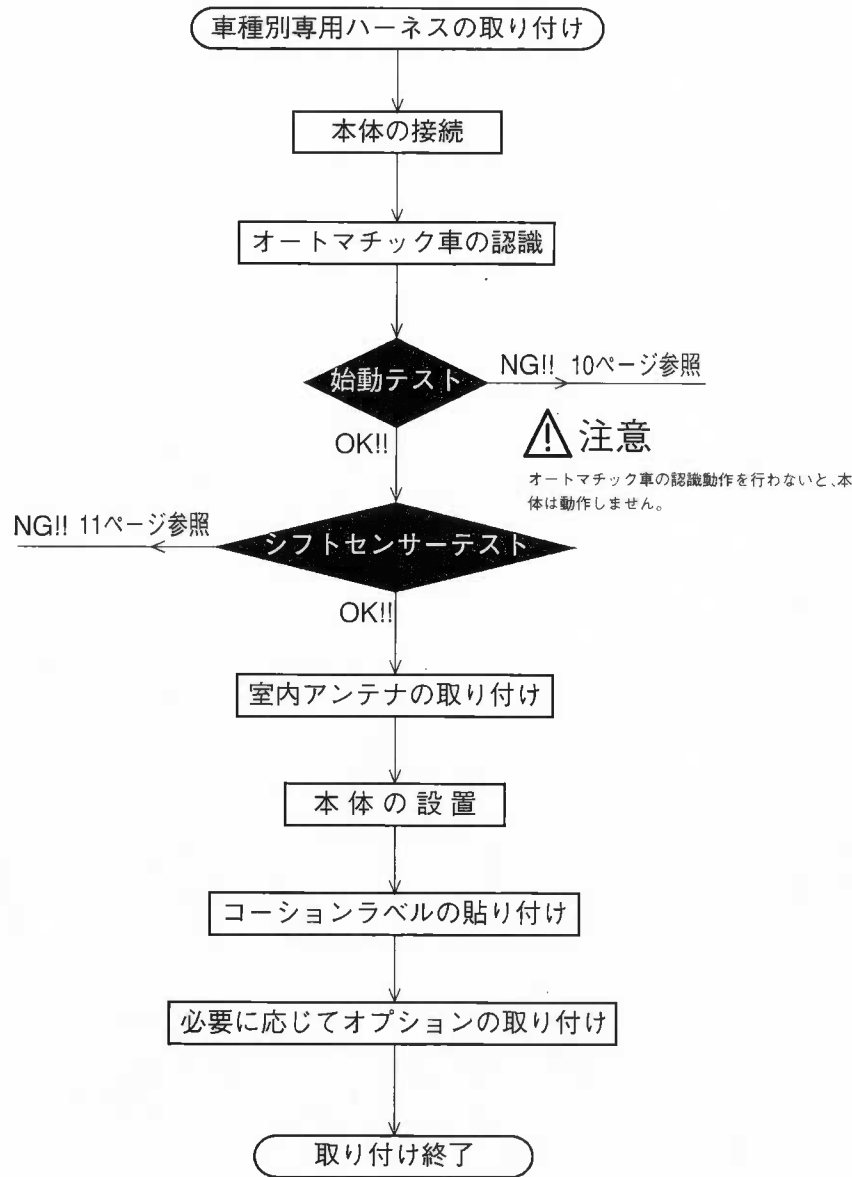
⚠ 注意 ● EGS-S1 単体でのみ、取り付け可能です。

他社製のエンジンスターター、もしくはターボタイマーが取り付けられている車には取り付けはできません。併用すると、それぞれが正しく動作しない恐れがあります。又、故障や誤動作の原因となります。

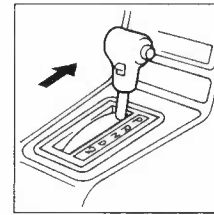
パッケージ内容 (作業前にパッケージの内容を必ず確認してください。)



● 取り付け手順

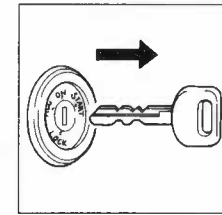


● 取り付けの前に



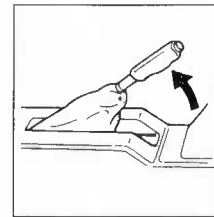
⚠ 警告

- シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れてください。



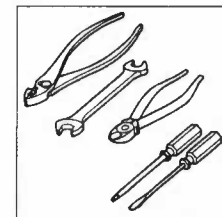
⚠ 注意

- 車のキーは必ず抜いてください。



⚠ 警告

- パーキングブレーキは確実にかけてください。



MEMO

- 取り付け工具について
 +ドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナなど。工具は商品には同梱されていないので、別途ご用意ください。

⚠ 警告

- 他社製ハーネスは使用しないでください。

他のエンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないでください。車両故障、製品故障の恐れがあります。また保証適応対象外になります。

適応車種一覧表をよくご覧になり、車に適合した当社製専用ハーネスをご使用ください。

⚠ 危険

- オプション（別売）について

適応車種一覧表をよくご覧になり、必要に応じてオプション（別売）をご使用ください。

- ・ボンネットスイッチ
 車のボンネットが開いている時に、リモコンでのエンジン始動をできなくする安全装置です。
- ・ホンダレジェンド用 DPS アダプター
 レジェンド（型式KA7～9のDPS装着車）のドライビングポジションシステムのチルトステアリングのAUTO機能を動作させることができますようにします。

● 車種別専用ハーネスの取り付け

ステップ1 キースイッチの配線カプラーを探します。

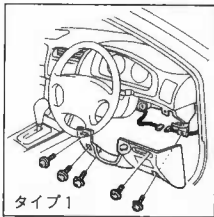


MEMO キースイッチの配線カプラーは基本的には車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安にしてください。

配線カプラーの位置を大別すると次の4タイプになります。

タイプ1

アンダーカバーを外し、キーシリンダーより出ている配線の約20～30cm先にカプラーが位置しているタイプ



タイプ1



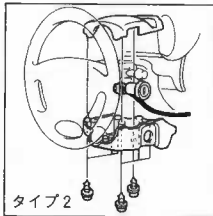
MEMO アンダーカバーを取り外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

専用ハーネス例

T001	T002	T005
T006	N022	N025
M065	S071	

タイプ2

ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ



タイプ2



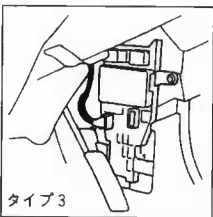
MEMO ステアリングコラムカバーを取り外す際、車種によってはステアリングを90度くらい廻さないとネジが外せない場合があります。

専用ハーネス例

T003	T004	N023
M067	D082	

タイプ3

ヒューズBOXやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ



タイプ3



MEMO ホンダ車の場合アクセスペダル横のヒューズBOX内に接続されている場合もあります。

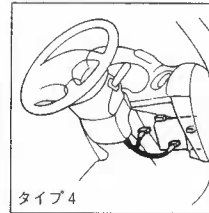
専用ハーネス例

T008	H046	H048
H049		

● 車種別専用ハーネスの取り付け

タイプ4

配線カプラーが2箇所に分れているタイプ
それぞれのカプラーの位置が離れているものもあります。



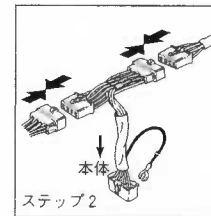
タイプ4

専用ハーネス例

H041	H043	H044
H045	H047	D083
A093	A094	

ステップ2 専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーをいったん外します。
車種別専用ハーネスを、はずしたカプラーの間に割り込ませます。



ステップ2



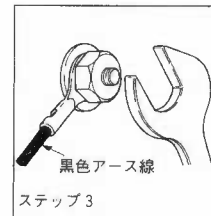
注意 カプラーの接続は振動等で外れないように、最後まで確実に差し込んでください。

ステップ3 アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーの⊖に接続されます。

アース線接続が不完全な場合、動作が不安定となり、オートマチック車の認識情報が消去されたり、エンジンが駆動されない等の不具合が生じます。

接続箇所を十分認識の上、適正な場所に接続してください。



ステップ3



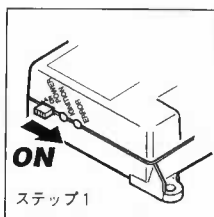
注意 塗装されている金属部分や、車の振動等でゆるんでしまう場所に取り付けると、本体がうまく動作しない事があります。

ステップ4 本体を接続します。

本体から出ているカプラーとハーネス先端のカプラーを接続します。

● 本体にオートマチック車である事を認識させます

エンジンは始動させないでください。
誤って始動させた場合、ステップ1からやりなおして下さい。

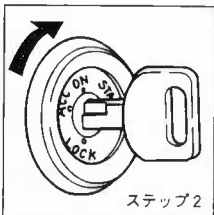


ステップ1 本体のパワースイッチをONにします。

イグニッションランプ（緑）が3回点滅した後、消灯します。
またこの時本体から、ブーブー、ブーブー・・・と断続音が鳴り続けます。



点滅しない場合は、アースが確実に取れているか、またハーネスの品番が間違っていないか、再確認してください。

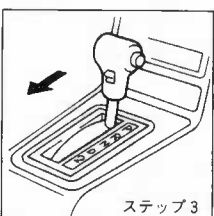


ステップ2 キーをさし込み、ONの位置にします。

この時、本体からでる断続音が、プブッ プブッ・・・の2連音へと変化します。



この時、エンジンは始動させないでください。

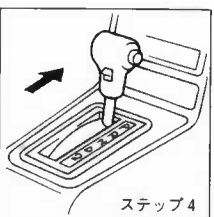


ステップ3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

本体からでる断続音が、プブブッ プブブッ・・・3連音へと変化します。

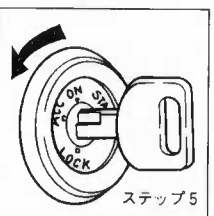


シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作してください。断続音に変化する事を必ず確認してください。断続音に変化しない場合は一旦作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認してください。（追加配線を行う必要があります。）なお、追加配線後はステップ1からやり直してください。



ステップ4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時、本体からプブブッ プーと音が鳴り、オートマチック車の認識が終わった事を知らせて鳴り止みます。



ステップ5 キーをOFFの位置に戻し抜き取ります。



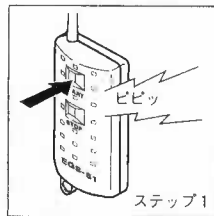
車種によってはLOCKの位置になります。



以上でオートマチック車の認識は終了です。

● 動作確認をします

シフトレバーは、必ずPレンジにしてください。



ステップ1 リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、スタートスイッチを音（ピビッ）が鳴るまで押し続けます。



危険 周囲の安全を確認の上、サイドブレーキをしっかりと引いてください。重大事故につながる恐れがあります。

ステップ2 車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、まず本体にあるイグニッションランプ（緑）、及び車のメーターパネルが点灯にします。そして数秒後にスターターが廻りエンジンが始動します。エンジン始動後は、本体から警告音（ブッ）が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ（再始動）動作を行います。



うまく始動しない場合は10ページを参照してください。ABS装着車は14ページを参照してください。



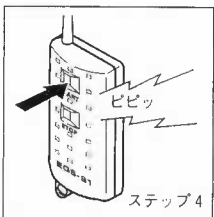
ステップ3 シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンが始動した後、キーをささずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。

この時エンジンが止まる事を確認します。エンジンが停止しない場合は、11ページを参照してください。



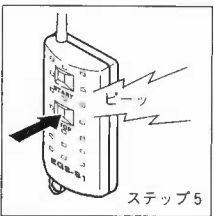
車種によっては、キーをささないでシフトレバーが動かさないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで廻して確認してください。



ステップ4 シフトをPレンジに戻しリモコンで、再度エンジンを始動します。



キーをACCの位置まで廻して確認した場合、必ずOFFに戻してください。



ステップ5 リモコンのストップスイッチを押しエンジンが停止する事を確認します。

リモコンのストップスイッチを音（ピーッ）が鳴るまで押し続けます。本体が信号を受信するとエンジンは停止します。



以上で動作確認は終了です。

● うまく動作しない時は・・・

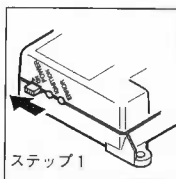
エンジンがうまく始動しない時



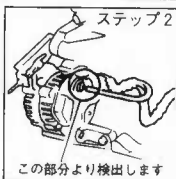
?? エンジンは始動しても数秒で停止してしまい、又自動的に再始動動作（リトライ）が行われても始動しない場合。



エンジンの始動検出がうまく行われていないと考えられます。こういった場合、次のL端子配線を行ってください。



ステップ1 一旦本体のパワースイッチを切ってください。

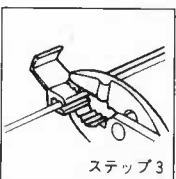


ステップ2 車両のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1～3V、エンジンが駆動している時12～14Vになる線です。（必ずテスターをご使用ください）



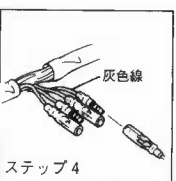
車両によって室内からL端子線をとれる車もあります。詳しくは当社ユーザーサービス係までお問い合わせください。



ステップ3 付属の灰色コードを接続します。

付属の灰色コードのギボシ端子の付いていない方を、オルタネーターから出ているL端子線に、付属のエレクトロタップで接続します。

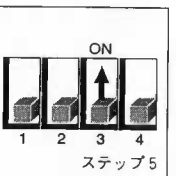
⚠ 注意 接触不良が起きないように確実に取り付けてください。



ステップ4 灰色コードのギボシ端子を本体に接続します。

灰色コードをエンジンルームからグロメット等を利用して車室内に引き込み、EGS-S1（本体）の灰色コードに接続します。

⚠ 注意 灰色コードがボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。



ステップ5 本体モードスイッチの3番をONにします。

スイッチが小さいためボールペンの先端などで行ってください。



以上でL端子配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認してください。

● うまく動作しない時は・・・

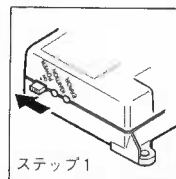
シフトセンサーがうまく働かない時



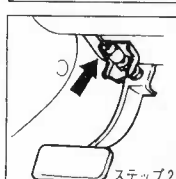
?? リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合。



オートマチックシフトの検出がうまく行われていない事が考えられます。こういった場合は次のフットブレーキ配線を行ってください。



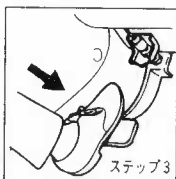
ステップ1 一旦本体のパワースイッチを切ってください。



ステップ2 車両のフットブレーキスイッチを探します。
フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。



フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。

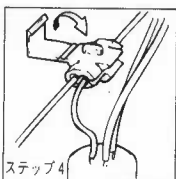


ステップ3 ブレーキペダルを踏んだ時に12Vになる線を見つけます。

フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだ時に12Vとなる線を見つけてください。（必ずテスターをご使用ください）



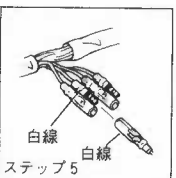
車のリヤストップランプを点灯させる為の線です。



ステップ4 付属の白色コードを接続します。

付属の白色コードのギボシ端子の付いていない方を、ステップ3で見つけた線に、付属のエレクトロタップで接続します。

⚠ 注意 接触不良が起きないように確実に取り付けてください。



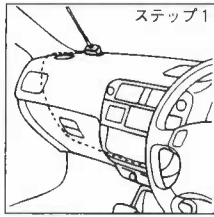
ステップ5 白色コードのギボシ端子を本体の白色コードに接続します。



以上でフットブレーキ検出への変更は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止する事を確認してください。

● 各種取り付け作業

室内アンテナの取り付け

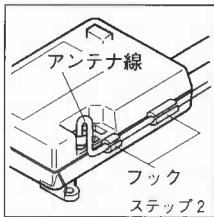


ステップ1 室内アンテナを設置します。

ダッシュボードサイドのピラーから10cm以上離し、できるだけフロントガラスに近い平らな場所に設置してください。

警告 エアバック装着車は、エアバックカバー部には固定しないでください。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。

注意 室内アンテナは、運転の妨げにならない場所に設置してください。
アンテナを手前寄りに取り付けした場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかり固定してください。



ステップ2 本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。

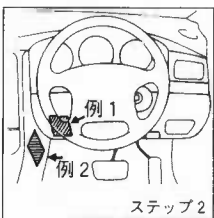
アンテナジャックに差し込んだ後、抜け防止の為フックにアンテナ線を固定してください。

本体の取り付け

ステップ1 配線したコードを整理します。

これまでに配線した、コード、アンテナ線等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定してください。また未接続のギボシ端子は、ビニールテープ等で絶縁してください。

警告 配線コードが挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本体や車輛の故障、さらには車輛火災を起こす可能性があります。



ステップ2 本体を設置します。

本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の両面テープ等を使用して設置します。

注意 本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないでください。

ステップ3 外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼ってください。
貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去してください。

危険 ボンネットを開けて作業をしている際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼ってください。



以上で取り付けは終了です。

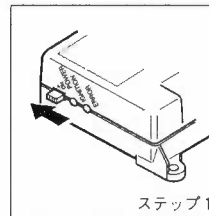
● 各種取り付け作業

ボンネットスイッチを取り付ける場合

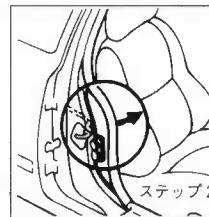
ボンネットスイッチ（別売）の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時のリモコンでのエンジン始動ができなくなり、作業中の安全を確保できます。できるだけボンネットスイッチの取り付けを行ってください。
取り付けに関しては、ボンネットスイッチの取付説明書をよくお読みください。

運転席側ドアスイッチ配線を行う場合

ドアスイッチへの配線を行うことにより、リモコンでのアイドリング中に、ドアを開けるとエンジンを停止させる事ができます。

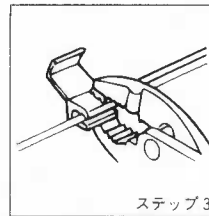


ステップ1 一旦本体のパワースイッチを切ってください。



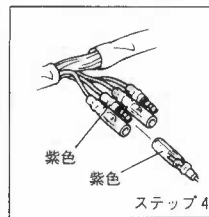
ステップ2 ドアスイッチ線を探します。

ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用ください)



ステップ3 付属の紫色コードを接続します。

付属の紫色コードのギボシ端子の付いていない方を、ステップ2で見つけた線に、付属のエレクトロタップで接続します。



ステップ4 紫色コードのギボシ端子を本体の紫色コードに接続します。

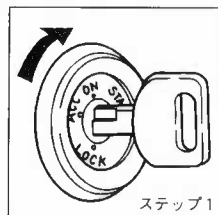


以上でドアスイッチ配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認してください。

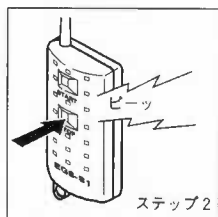
● ABS装着車にお乗りのお客様へ

リモコン始動時にABS警告灯が点灯する場合はキー始動学習を行ってください。(エンジン停止状態から始めてください。)

キー始動学習機能の設定方法



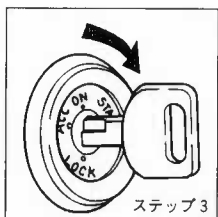
ステップ1 キーをONの位置にします。



ステップ2 上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音ブッ ブッ・・・(2連音)が鳴ります。

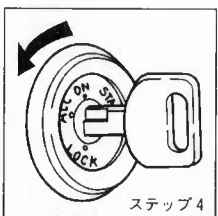
注意 10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直してください。



ステップ3 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

本体からブブブ ブーと音が鳴りキー始動学習が行われたことを知らせ、鳴り止みます。

注意 30秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。(本体から”ピーピー”という警告音がします) キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直してください。



ステップ4 キーをOFFの位置にします。

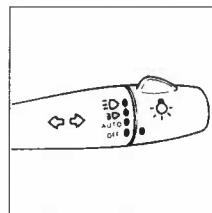


以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

● 正しくお使いいただくために

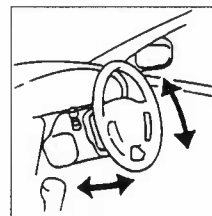
オートライト装着車について

オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用ください。



オートチルト装着車について

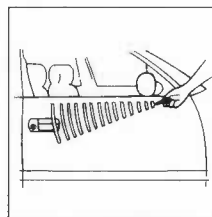
オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車に取り付けの場合、リモコンでのアイドル中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は動きません。一旦エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行ってください。



ドアスイッチ配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることもできます。詳しくは、13ページを参照してください。

リモコンドアロック装着車について

リモコンドアロックおよびキーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中(リモコンでのエンジン駆動中も含む)リモコンによるドアロック・アンロックの操作が出来なくなる車種がありますので、一旦エンジンを止めるか、キーでドアを開けてください。

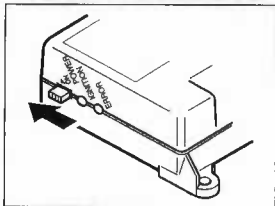


始動距離について

始動距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方などによって変化します。一般に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると始動距離は短くなります。

● 使用上の注意

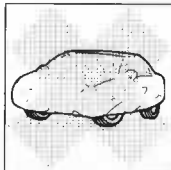
⚠ 危険



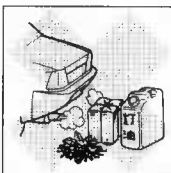
下記の場合には、パワースイッチを切ってください。

事故の恐れがあります。

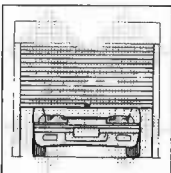
- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 当製品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



車にボディカバー等を掛けたままで使用しないでください。火災の恐れがあります。



リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに燃えやすい物が無いことを確認してください。火災の恐れがあります。



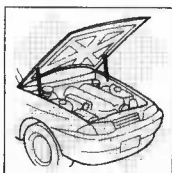
密閉されたガレージ内では使用しないでください。排気ガスが充満して危険です。



人（特にお子様）やペットが車内にいる時は、絶対にエンジンを始動しないでください。お子様による車輛の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。

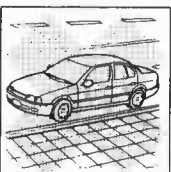


リモコンは、お様の手の届く所には、置かないでください。事故の恐れがあります。



ボンネットを開ける時は本体のパワースイッチを切ってください。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。事故の恐れがあります。

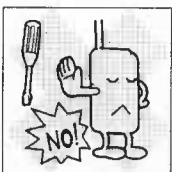
⚠ 警告



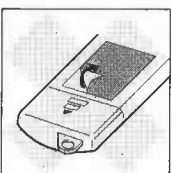
公道上では使用しないでください。必ず駐車場、又は私有地内で使用してください。公道上での使用は違法となります。



リモコン本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってからふき、乾いた布でもう一度ふいてください。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないでください。変形、変色や事故の原因となります。



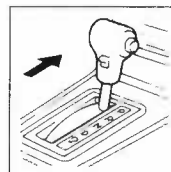
この製品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対しないでください。



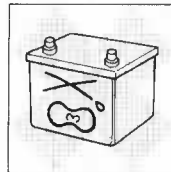
ラベルを剥がしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対しないでください。

● 使用上の注意

⚠ 注意



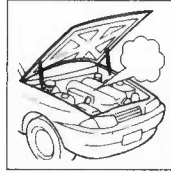
シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用してください。Nレンジでは使用しないでください。パーキングブレーキは、必ずかけてください。



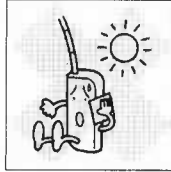
バッテリーの弱っている車や改造車では、正常にエンジン始動できない場合があります。



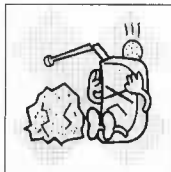
環境保護のため必要以上のアイドリングは行わないでください。



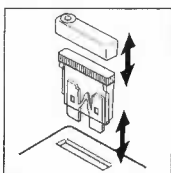
暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をする恐れがあります。エンジンを停止後、火傷の恐れのないことを確認してから運行前点検を行ってください。



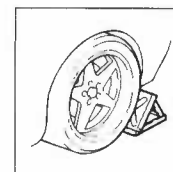
リモコンは、高温になる場所には放置しないでください。変形、変色や故障の原因となります。



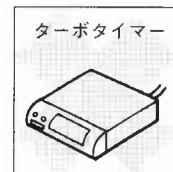
リモコンは落としたり、硬い物にぶつけないでください。故障の原因となります。



ヒューズ切れの直後は高温となりますので、交換には注意してください。又、交換作業後はヒューズキャップが必ずついている事を確認してください。尚、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がる場合がありますのでご注意ください。

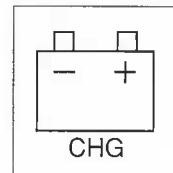


斜面で使用される場合は、必ず輪止めをしてください。



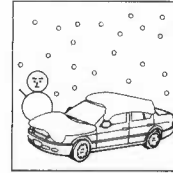
ターボタイマー

他社製エンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対しないでください。故障や誤動作の原因となります。



CHG

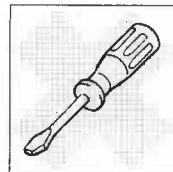
キーでエンジンを始動した後に、車輛の充電警告灯が消えない場合は、エンジンスターターを使用せずに車輛の点検整備をしてください。



寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで2.5秒以内にエンジンが始動するように車輛を整備してください。



リモコン、及び本体は水に濡らさないでください。故障の原因となります。



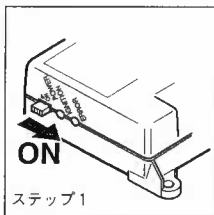
本体の内部に異物を入れないでください。故障の原因となります。又、分解、改造をしたものについては保証できません。

● 使用方法

リモコンでエンジン始動

ステップ1 本体のパワースイッチをONにします。

イグニッションランプ(緑)が3回点滅します。同時に本体からブッブッ(3回)と音が鳴ります。

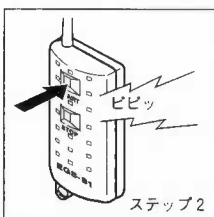


⚠ 注意 降車時に、下記の事を確認してください。

1. パーキングブレーキを確実にかける。
2. シフトレバーはPレンジに入れる。
3. 必要に応じてエアコン(ヒーター)をセットする。
4. キーを抜く。

ステップ2 リモコンでエンジンを始動します。

リモコンのロッドアンテナを、最後まで引きだして、スタートスイッチを音(ビピッ)が鳴るまで押し続けます。数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。



MEMO リモコンによるエンジン駆動中は、本体から警告音(ブッ)が数秒間隔で鳴り続け自動停止1分前は連続音へと変わり、使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

ステップ3 走行します。

車のキーを差し込み、ONの位置まで回してください。あとは通常どおり走行できます。

尚、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアをあけるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動してください。

⚠ 注意 キーを回す際に、誤ってSTART(STT)の位置まで回すと、スターターを傷めます。

リモコンでエンジン停止

リモコン始動後に走行しない場合は、リモコンのストップスイッチを音(ピーッ)が鳴るまで押し続ける事で、ただちにエンジンを停止させる事ができます。

タイマーで自動停止

始動後約20分でエンジンは自動停止します。

● 使用方法

スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能がはたらきます。スリープ機能がはたらくと、リモコンによるエンジン始動はできません。スリープ機能を解除するときは、本体のパワースイッチを一旦切って入れなおすか、キーを使ってエンジンを始動させてください。

● 末永くご使用頂くために

本製品を末永くご使用頂くために、下記内容にご注意ください。また下記が守られなかったことが原因による故障は、保証期間内であっても保証の対象となりませんのでご注意ください。修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理となります。

ホルダーリングについて

リモコン本体にキーホルダーや車のキー等を取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングをご使用ください。

⚠ 注意 リモコン本体金具に直接キーホルダーや大きなリングを取り付けた状態でポケット等に入れ携帯しますと、金具部に必要以上の力が加わりリモコン本体を損傷する恐れがあります。

リモコン本体の取り扱いについて

本リモコンは小型精密無線機器ですので、取り扱いには充分ご注意ください。

⚠ 注意 本リモコンは、コンクリート等の地面に落下させると故障する恐れがあります。ポケット等での携帯時には、充分ご注意ください。

⚠ 注意 リモコン内部への水の侵入は、故障の原因となります。衣類のポケット等に入れたまま、洗濯しないように充分ご注意ください。

リモコンアンテナの取り扱いについて

リモコン本体のアンテナは無理な力で引き伸ばしたり、収納したりしないでください。

⚠ 注意 アンテナの損傷は、アンテナ機能に影響をおよぼし、電波到達距離が短くなる恐れがあります。

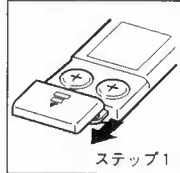
● メンテナンス

電池の交換方法



本製品は新品の電池で約10000回以上使用できるように設計されており、使用中、受信距離が短くなってきたら電池を交換してください。(使用電池:酸化銀電池SR44×2個) 又、商品に添付されている電池はテスト用のものですので、10000回以内に電池交換が必要になる場合があります。

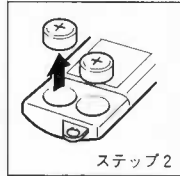
*使用温度によっては若干少なくなります。



ステップ1

ステップ1 電池ブタをはずします。

電池ブタを押しながら矢印の方向にスライドさせてください。



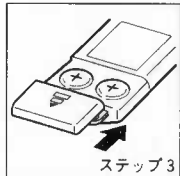
ステップ2

ステップ2 電池を交換します。

電池の十、一の向きに注意して交換してください。



注意 電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換してください。



ステップ3

ステップ3 電池ブタを閉じます。

ステップ4 交換後、送信テストを行ってください。

本体の電源を切る時は



車を車検整備に出す時や、旅行等により長期間使用しない場合は安全の為、本体の電源スイッチを切ってください。

尚、EGS-S1はメモリー機能を採用しておりますので、次回お使いになる際に再度オートマチック車の認識等をしなくても、電源スイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用ができます。



専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリーを交換した場合は、再度オートマチック車の認識からやり直す必要があります。

● 故障とお考えになる前に

このような時	チェックしてください	処 置
リモコンのスタートスイッチを押しても音が鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> ○ スイッチを押す時間が短くありませんか? ○ リモコンの電池は消耗していませんか? 	<ul style="list-style-type: none"> → 0.5秒以上スイッチを押してください → 電池を新品に交換してください
リモコンのスタートスイッチを押してもまったく作動しない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音(ビピッ)がするまでスタートスイッチを押していますか? ○ 車のキーがONになっていませんか? ○ リモコンのアンテナを伸ばしていますか? ○ 室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか? ○ リモコンの電池は消耗していませんか? ○ 車輻のバッテリー端子が外れていませんか? ○ 15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか? ○ 車のバッテリーは弱っていませんか? ○ 本体電源がONになっていますか? 	<ul style="list-style-type: none"> → 音(ビピッ)がするまで押してください → キーを抜いてください → アンテナを伸ばしてください → アンテナプラグを差し込んでください → 電池を新品に交換してください → 端子を接続しオートマチック車の認識を行ってください → スリープモードになっています本体の電源スイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させてください → 車のバッテリーを点検してください → 本体電源をONにしてください
リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車のシフトレバーがPレンジに入っていますか? ○ 車のバッテリーは弱っていませんか? ○ オルタネーター(L端子)配線が行いましたか? 	<ul style="list-style-type: none"> → シフトレバーをPレンジに入れてください → 車のバッテリーを点検してください → オルタネーター(L端子)配線が正しく行われていない可能性があります。正しく配線してください
再始動動作を行うが、エンジンは始動しない	<ul style="list-style-type: none"> ○ オルタネーター(L端子)配線を行いましたか? ○ 車のバッテリーは弱っていませんか? 	<ul style="list-style-type: none"> → オルタネーター(L端子)配線をしてください → 車のバッテリーを点検してください
本体の電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本体のヒューズが切れていませんか? ○ 専用ハーネスのカプラーが外れていませんか? ○ 専用ハーネスの黒線(アース線)が外れていませんか? ○ 専用ハーネスの品番は正しいですか? 	<ul style="list-style-type: none"> → ヒューズを交換してください → カプラーを確実に差し込んでください → 黒線(アース線)を確実に接続してください → 適応車種一覧表を再度確認してください
本体のエラーランプが点滅してリモコン始動できない	<ul style="list-style-type: none"> ○ ドアが開いていませんか?(運転席のドアスイッチへの配線を行った場合) ○ ボンネットが開いていませんか?(別売ボンネットスイッチの配線を行った場合) ○ ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか? ○ フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか? 	<ul style="list-style-type: none"> → ドアを閉めてください → ボンネットを閉めてください → 正しく配線してください → 正しく配線してください
始動距離が短くなった	<ul style="list-style-type: none"> ○ リモコンの電池は消耗していませんか? ○ リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか? ○ リモコンのアンテナを伸ばしていますか? ○ 室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか? ○ 周囲の環境は変化していませんか? 	<ul style="list-style-type: none"> → 電池を新品に交換してください → 送信の際はアンテナに触れないようにしてください → アンテナを伸ばしてください → アンテナプラグを差し込んでください → 15ページの「始動距離について」を参照してください
リモコンのスタートスイッチを押すと本体のイグニッションランプとエラーランプが交互に点滅し、警告音(ビービー)が鳴る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車のキーがACCになっていませんか? ○ 車のシフトレバーがPレンジに入っていますか? ○ 専用ハーネスの品番は正しいですか? 	<ul style="list-style-type: none"> → キーを抜いてください → シフトレバーをPレンジに入れてください → 適応車種一覧表を再度確認してください → 車の車種名・年式・型式を照合後、品番が正しい場合はユーザーサービス係までお問い合わせください ● 警告音はキーをONにすれば停止します

● ブザー音とモードスイッチについて

通常使用時のブザー音一覧表
(オートマチック車認識・キー始動学習を除く)

ブザー音	本体のブザーが鳴る場合
ブブブブ	本体の電源が入った場合 (同時にイグニッションランプも3回点滅)
ブ	リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合/オルタネーター (L端子) 配線が正しい場合
ブブ	リモコンでエンジンが始動した場合
ブ ~ ブ	リモコンでエンジン駆動中 リモコン始動直後から5秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなります 自動停止直前 (1分前) は連続音になります。
ブブブ	スリープから復帰した場合
ビービー	リモコンでエンジンが始動しない場合
ビービー・ ビービー・ ビービー	オルタネーター (L端子) 配線が間違っている場合
ビービービー	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合
ビー・ビー・・・ (繰り返す)	車輻との相性が悪い (悪くなった) 場合 (イグニッションランプとエラーランプが交互に点滅) *当社ユーザーサービス係へお問い合わせください。 ●警告音はキーをONにすれば停止します。

モードスイッチメニュー

		OFF	ON
1	予熱時間	ガソリン車と予熱 (グロー) 時間が6秒未満のディーゼル車	予熱 (グロー) 時間が6秒以上のディーゼル車
2	シフト検出	シフトポジション検出有効	シフトポジション検出無効 ※フットブレーキへの配線が必要です
3	始動確認	L端子線接続を自動認識し当社専用回路にてエンジンの始動状態を検出する	オルタネーターのL端子線の変化のみでエンジンの始動状態を検出する
4 *	送信 ID	通常動作	リモコンの ID コードを登録する

*: 通常使用致しません。

● 仕様

リモコン

■型式名	EGST-02	■送信確認方法	ブザー
■技術基準	RCR 標準規格 テレコントロール用 無線設備適合	■送信時間	3秒以内
■送信周波数	426MHz 帯の 10 波のうち 1 波使用	■送信休止時間	2秒以上
■通信方式	単方向通信方式	■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■送信出力	1mW 以下	■制御コード	アドレスコード 32 ビット / コントロールコード 8 ビット
■電波方式	MSK 変調 1200bps	■動作温度範囲	-20℃ ~ +60℃
■呼出名称	送信時自動送出	■定格電圧	DC3V
■周波数安定度	± 4ppm 以下	■使用電池	酸化銀電池 SR44 × 2 個
■周波数偏移	± 2.5kHz	■電池寿命	電池交換なしで 10000 回以上送信可能
■スイッチ	エンジンスイッチ (スタート/ストップ)	■外観寸法 (mm)	65 (H) × 29 (W) × 12 (D) (突起部除く)
■重量	20g (電池含む)		

本体

■型式名	ES-4R	■消費電力	通常待機時平均 10mA 以下、 スリープモード時 500 μA
■受信周波数	426MHz 帯の 10 波のうち 1 波使用	■始動検出	専用ハーネス (自動)、 オルタネーター L 端子 (選択)
■受信感度	~ 9db μV 以下	■安全対策	パーキングポジション (自動)、 フットブレーキ (選択)、 ドア開放 (任意)、ボンネット開放 (任意)
■局発安定度	± 4ppm 以下	■ヒューズ	自動車用ブレードヒューズ 25A
■アンテナ	1/4 λ 室内アンテナ	■タイマー	20 分後自動停止
■動作温度範囲	-20℃ ~ +70℃	■重量	292g
■復調コード	アドレスコード 32 ビット / コントロールコード 8 ビット	■外観寸法 (mm)	30 (H) × 114 (W) × 80 (D) (突起部除く)
■電源電圧	最低動作電圧 DC8.5V 最高動作電圧 DC16V		
■パワー系制御電流	突入電流 80A 最大電流 25A		

仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※ この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

《保証規定》

本製品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態での使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理させていただきます。

- 修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。
また、修理の際は必ずリモコンと本体をセットでお渡しください。(リモコンのみでは修理できません)
- この保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- 本保証書は再発行致しませんので、大切に保管してください。

なお、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

1. お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
2. 製品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
3. 火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
4. 適合外車輻への取り付けや、当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
5. 取付・取扱説明書の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損害等。
6. 保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。

- 消耗部品 (電池、アンテナ等) やリモコンのケース破損は保証対象外です。
 - 修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。
 - 本製品の製造中止 5 年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。
- ※ 保証期間経過後の修理については、当社ユーザーサービス係までご相談ください。
修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

株式会社 ミツバ